

## 6-1 (15)

多発性骨髄腫に対する亜砒酸治療  
(会長要望講演)

大西一功

浜松医科大学 第三内科

亜砒酸 (arsenic trioxide: ATO) は、急性前骨髄球性白血病のみならず他の造血器腫瘍に対しても抗腫瘍効果を示す事が *in vitro*, *in vivo* で確認されている。多発性骨髄腫 (MM) においても、ATO 単独あるいは併用療法による各種臨床研究成績が報告されている。今回は欧米における ATO の第 相試験を概観するとともに、本邦において行われた治療経験も報告する。

ATO 単剤による第 相試験成績は米・仏より報告されている。Munshi らの単施設の報告では、再発・不応 MM14 例に対し、ATO 0.15mg/kg/day 60 日間投与により、PR 1 例、MR 2 例、stable disease (SD) 8 例が報告され、その後米国の多施設で行われた第 相試験では、ATO 0.25mg/kg/day 5 日間週 2 週投与が 4 週毎に行われ、8/24 に MR 以上、6/24 に SD の有効性が報告された。有害事象としては grade 3 以上の好中球減少が 16/24 に生じたが、他は概ね軽度であった。各種併用療法も報告されているが、このうち ATO にメルファランとアスコルビン酸を加えた MAC 療法 (ATO 0.25mg/kg/day を第 1 週は 4 日間、2 週以降は週 2 回点滴、アスコルビン酸は 1g を各 ATO 後に点滴投与、メルファランは 0.05-0.10mg/kg 4 日間を 4 ~ 6 週毎に投与) が注目されている。10 例中全例に MR または PR が認められた。このうち 5 例は腎不全を併発していたが MAC 療法後に 35-68% の血清クレアチン値の低下が報告されている。以上、再発・不応性 MM に対し、ATO 単剤でもある程度の臨床効果が認められているが、他剤との併用により更に有効性を高める事が期待されている。我々も再発・不応性 MM に対して MAC 療法を試みており、本邦での経験もあわせて報告する予定である。